

2023年11月19日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**

第66巻第33号(通算3365号)

教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう

# 週報

教会標語

神様がすべての人と共に  
おられることを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>

【連絡先(牛田)】090-9161-4027

[kyuho-church@koinonia.or.jp](mailto:kyuho-church@koinonia.or.jp)

主任担任教師・牛田 匡 牧師

担任教師・水谷 憲 牧師

隠退教師・小林 達夫 牧師

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切に作る神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマ5:5)

こうたんぜんせつ だい しゅじつれいはい

## 降誕前節 第6主日礼拝

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

ぜん そう もくとう ちよさくけんしやうめつ  
前 奏 黙 禱 AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば ふくいんしよ しやう せつ  
招きの詞 ヨハネによる福音書 6章 32b-33節

きんびか ばん しめかみ  
賛美歌 21-74番「キリストの示す神を」(©JASRAC)

せいしよ しゆつ き しやう せつ  
聖 書 出エジプト記 2章 1-15節

いの  
お 祈り

きんびか ばん しゆ さんびかいいんかい  
賛美歌 21-56番「主よ、いのちのパンをさき」(©讚美歌委員会)

ひごと かけて いのち うしだ ただし ぼくし  
メッセージ「日毎の糧 命のパン」 牛田 匡 牧師

きんびか しんせいさんびか ばん よ ちから かこ  
賛美歌 『新生讚美歌』73番「善き力にわれ囲まれ」(©JASRAC)

しゆ いの ばん てん ちち きやうだんさんびかかいていいんかい  
主の祈り 62番「天にいます わたしたちの父」(©教団讚美歌改訂委員会)

あいじしゆくふくしき うしだ ただし ぼくし  
愛児祝福式(\*) 牛田 匡 牧師

ささげもの  
献 げ 物 (\*\*)

は けん ばん かみ めぐ う せつ  
派 遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ)(©JASRAC)

しゆくふく うしだ ただし ぼくし  
祝 福 牛田 匡 牧師

こう そう ばん きやうだんさんびかいいんかい  
後 奏 アーメン コーラス (21-40-6番)(©教団讚美歌委員会)

ほうこく ページ さんしやう  
報 告 (4頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

\* みんなで出席された子どもたちに神様からの祝福をお祈りします。

\*\* 「献げ物(献金)」は受付にある献金箱にお入れください。

招きの詞 まね ことば ヨハネによる福音書 6章 32b-33節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>32b</sup>「よくよく言うておく。モーセが天からのパンをあなたがたに与えたのではない。私の父が天からのまことのパンをお与えになる。<sup>33</sup>神のパンは、天から降って来て、世に命を与えるものである。」

聖書 出エジプト記 2章 1-15節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>1</sup>レビの家のある男が、レビの娘をめとった。<sup>2</sup>女は身ごもり、男の子を産んだ。その子を見ると、愛らしかったので、三か月間隠しておいた。<sup>3</sup>しかし、もはやその子を隠しきれなくなったので、その子のためにパピルスの籠かごを用意し、アスファルトと樹脂で防水し、その中に赤子を寝かせてナイルのほとりの水草の茂みに置いた。

<sup>4</sup>その子の姉が遠くから、その子の身に何が起こるかうかがっていると<sup>5</sup>ファラオの娘が下りて来て、川で水浴びを始めた。侍女たちは川の岸を歩いていた。ファラオの娘が水草の茂みでその籠を見つけ、女奴隷をやって取って来させた。<sup>6</sup>開けてみると、赤子がいた。それは男の子で、泣いていた。彼女は不憫ふびんに思って、「この子はヘブライ人の子です」と言った。<sup>7</sup>その時、その子の姉がファラオの娘に申し出た。「私が行って、あなたのために、この子に乳を飲ませる乳母をヘブライ人の中から呼んで参りましょうか。」<sup>8</sup>するとファラオの娘は、「行って来なさい」と言った。そこで、少女は行って、その赤子の母親を呼んで来た。<sup>9</sup>ファラオの娘は彼女に言った。「この赤子を連れて行って、私のために乳を飲ませなさい。私が手当てを払います。」そこで、母親は赤子を引き取り、乳を飲ませた。<sup>10</sup>その子が大きくなると、母親はファラオの娘のところに連れて行った。その子はファラオの娘の息子となった。ファラオの娘はその子の名を<sup>a</sup>モーセと名付けて、「私が彼を水から引き出したからです」と言った。(脚注 a:「引き出す」のヘブライ語より)

<sup>11</sup>それから長い年月がたち、モーセが大きくなってからのこと、彼は自分の同胞のところに出て行き、彼らが苦役くえきに服しているのを見た。モーセは一人のエジプト人が同胞のヘブライ人を打つうのを見た。<sup>12</sup>モーセは辺りを見回し、誰もいないのを確かめると、そのエジプト人を打ち倒し、砂に埋めた。<sup>13</sup>翌日モーセが出て行くと、今度は二人のヘブライ人が争っていた。それで、悪いほうを、「なぜ仲間を打つのか」とたしなめた。<sup>14</sup>するとその男は、「誰がお前を我々の監督さばや裁き人びととしたのか。あのエジプト人を殺したように、私を殺そうというのか」と言ったので、モーセは恐れ、きっとあのことが知られているのだと思った。<sup>15</sup>ファラオはこのことを聞いて、モーセを殺そうと捜し求めた。しかしモーセはファラオの手を逃れ、ミデヤンの地にたどりついて、とある井戸のほとりにとどまった。

## 《先週のメッセージより》11月12日

「神の選びの基準」より

牛田匡牧師

聖書 詩編 105 編7-15 節

先月7日に、イスラエルとパレスチナのガザ地区にいる過激派組織ハマスとの戦争が始まり、一ヶ月以上が経過しました。犠牲は増え続け、もはや1万人以上の人々が亡くなったと報じられています。国連では「ガザは子どもたちの墓場になっている」「もはや『人道危機』を超えて『人類の危機』だ」とまで述べられています。第二次世界大戦後に現代イスラエル国が建国されてから、何度も中東戦争が繰り返されて来ています。多くの人々の血が流されて続けている惨劇の中で、命の源である神様の計画は、一体どこにあるのでしょうか。聖書に記されている古代イスラエル民族のアイデンティティの一つは、モーセに率いられてエジプトから脱出したというものですが、他の一つは神がアブラハムから古代イスラエル民族の父祖たちに「私はあなたにカナンの地を与え、あなたの相続地とする」(11) という約束をしたというものでした。その聖書の言葉に基づいて現代でも原理主義者たちがいるわけです。しかし、古代イスラエル民族が移住する前から、その地には多くの他民族が暮らしていたことがヘブライ語聖書の中に記されています。

それにも拘らず、「自分たちは神様から特別に選ばれ、守られて来た」という自己意識を持ったのは、「その数は少なく、数えるに足らず、その地に寄留していた」(12) に他なりません。聖書に記されている神の選びの基準は、民の数や強さではなく、逆に弱く少ないことだとされています(申命記7:7)。古代イスラエルの民が、数えるに足らない弱小部族で、いつ滅んでもおかしくなかったにも拘らず、今も生かされているのは何故か。そこには神様からの特別の守りがあり、選びがあったからだ、という理解が、そのような自己意識を生んだのでしょう。ヘブライ語聖書の中心は、貧しくされ、小さくされている者たちの痛みに対する神の共感であり、イエス・キリストはご自身のその身をもって「痛みを共感する神」「小さくされた者の側に立つ神」を表された方でした。戦禍が続く中、イエス様はどこにおられるのでしょうか。イエス様は爆撃によって町も家も破壊され、水も食糧も医薬品も事欠く中で、避難し、救援を待っている人たちと共に、「神も仏もあるものか」と嘆いておられる、その方々の中に共におられるのではないかと思います。この時代を生かされている私たちもまた、そんなイエス様に従う者として、イエス様が隣におられる方々と共にある者とされるように導かれていきます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



## ◎ 先週の報告 (11月12日)

礼拝出席 大人4名 献金 大人4,000円 中継視聴者数5回 感謝

## ◎ 次週 2023年11月26日(日) 降誕前節第5主日礼拝

招きの詞 詩編 17編 1-2節

聖書 ヨハネの黙示録 1章 4-8節

メッセージ「アルファでありオメガ」水谷憲牧師

賛美歌 17(©教団讃美歌委)、453(©JASRAC)、422(©教団讃美歌改訂委員会)

11月は「愛児祝福月間」ですので、子どもが出席された場合、礼拝の中で「愛児祝福式」を行います。また今年度11月までにお生まれになられた方々の「誕生者祝福式」も礼拝の中で行います。どなたでもお申し出ください。



## ◎ お知らせ

- ・本日礼拝後に、釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」を行い、いこい食堂にお届けする予定です。どなたでもどうぞご参加ください。
- ・本日14時半から、小阪教会にて河内地区有志教会合同婦人会が行われます。
- ・これまでの「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分をYouTubeでご覧いただくことも可能です。感染症予防のためなどそれぞれ方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。
- ・11月25日(土)9:50~12:30に大阪朝鮮初級学校(大阪市生野区)にて「来て見て知って朝鮮学校 生野フィールドワーク」が開催されます(主催:大阪教区日韓宣教協約特別委員会他)。民族学校ってどんな所か、まずは一度来てみてませんか? 大阪府、大阪市の朝鮮学校への補助金をすべて停止し、学校の運営は厳しさを増しています。しかし、この状況の中でも生き活きと明るい笑顔で学び育つ子どもたちを多くの方々に知っていただきたいと願っています。オモニたちの手づくりの昼食も用意してあります。参加費は無料です(ただし、カンパのお願いあり)。どなたでもご参加ください。最寄り駅は地下鉄千日前線・南巽駅から徒歩約10分、北巽駅から徒歩約15分です。事前申込は不要です。当日9時半から受付開始ですので直接、会場にお越しください。

## ◎ 次週以降の行事予定

|       | メッセージ | 行事                                     |
|-------|-------|--|
| 11/26 | 水谷牧師  | (愛児祝福月間)誕生者祝福式                         |
| 12/3  | 牛田牧師  | (第1アドベント礼拝)聖餐式<br>教会を考える会              |
| 12/10 | 水谷牧師  | (第2アドベント礼拝)<br>(第二好意の庭クリスマス会<br>・牛田牧師) |
| 12/17 | 牛田牧師  | (第3アドベント礼拝)                            |

## 来て見て知って 朝鮮学校

### 生野フィールドワーク

民族学校ってどんなところか、まず一度来てみませんか?そのような思いを込めて公開授業と交流会を企画しました。大阪府、大阪市の朝鮮学校の補助金をすべて停止し、学校の運営は厳しさを増しています。しかしこの状況のなかでも生き活きと明るい笑顔で学び育つ子どもたちを多くの方々に知っていただきたいと願っています。

「来て」「観て」「知って」そして出会い「感じて」みませんか。  
美味しいオモニ手作りの昼食も用意し、楽しい交流の時を持ちたいと思います。

**日時** 2023年11月25日(土) 午前9:30受付開始  
**場所** 大阪朝鮮初級学校  
〒544-0012 大阪市生野区巽西3-14-16 Tel.06(6758)0848

**参加費** 無料 どなたでもご参加ください。(カンパお願いあり)

**プログラム**  
09:30 ~ 受付  
09:50 ~ 10:35 公開授業、公開保育、  
教材や作品の展示  
11:00 ~ 12:00 公演、シンポジウム  
12:00 ~ 12:30 昼食交流会  
\*但し、昼食交流会はコロナ感染状況により  
中止の場合も有ることをご了解下さい。

**主催** 日本キリスト教団大阪教区日韓宣教協約特別委員会  
チョソンハッキョを楽しく支える生野の会  
大阪朝鮮学園大阪朝鮮初級学校

**連絡先** 長崎 090-2384-9061